

海ごみから生まれた能登復興支援事業と産地育成支援事業構想 (欠けは全て資源化できる)

裏印はエコマーク



一例：茶会用抹茶碗（試作）
* 東本願寺廃瓦15%配合・
（エコマーク商品）

親鸞聖人ゆかりの地「能登地区」が被災した。市民の80%が東本願寺の門徒であり、その教化活動を支える末寺の寺寺が被害を受け、大量の廃瓦が発生した。全国の門徒各位から支援が得られる再生事業（無焼成セラミック技術を活かした復興支援型ものづくり事業）を被災地に興すことを提案する。
六古窯（伝統産業）への支援：最大産地美濃焼の社会基盤（GL21）を活用することで支援が可能となる。

復興支援技術
名古屋工業大学に無焼成セラミック技術がある。地元で機械的に廃瓦を粉砕しエコ商品（植木鉢など）を製造する事業を興すことができる。全国の事業所（民間保育園など）に紹介し支援をお願いする。
美濃焼内には20年前から廃食器を活かしたRe陶土づくりがGL21で完成している。

東本願寺が廃瓦の資源有効活用で行政と協議し一時保管できれば業者の破砕機で10cm以下に一次粉砕委託でき再生原料として活かすことができる。
GL21は首都圏や近隣県の自治体から20年来一般廃棄物（不要食器）を受入している。

有価回収

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

11 住み続けられる
まちづくりを

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

無焼成セラミック技術とは
Sio2をナノ化したバインダ技術（接着剤）と微細化した無機質素材を合わせることで焼かないセラミック製品ができる。（下記試作品参照）



* 窯業原料ばかりでなく木材なども微粉砕することで固形物が出来上がる。

復興支援事業
事業内容：廃瓦を活かしたエコなものづくりを企画し販売する事業である。

エコな商品とは？
・国交省ブルーカーボン対象商品
・エコマーク商品

整備資本
・機械・機器の整備
・ものづくり就労者の確保
・営業・技術・販売管理者の養成

六古窯（信楽/丹波/越前/瀬戸/備前/清水）の支援事業になる。
交通基盤も整備された狭い日本、循環型社会づくりを普及啓発させるためにも産地の窯元にリサイクル陶土を供給することが必要である。

粉砕委託先
・全国陶磁器瓦工業組合
・廃棄物処理業者
・その他

事業の流れ
10cm以下に一次粉砕した廃瓦を粉砕工場に持ち込み（粉砕委託）、150μ以下に微粉砕（再資源化）しフレコン（収納袋/500kg袋）に保管する。

GL21では自治体から受入した一般廃棄物を粉砕し再生原料として陶土会社や土木会社に供給している



能登地区に再生原料として供給する。
GL21に参加する陶土会社は配合率15%~50%の陶土を生産し窯元にリサイクル陶土として供給している。

復興支援に関わる支援事業所
・東本願寺・石川県庁・能登地区自治体
・廃棄物処理業者（粉砕処理委託）
・名古屋工業大学（無焼成セラミック）
・地元市民（ものづくり支援）
・購入支援者（全国保育園・事業所）

事業所（法人化）：企画したエコな商品（藻場育成素材・植木鉢、食器など）をエコマーク登録し全国に情報提供（販売）する。

GL21が六古窯（信楽/丹波/越前/瀬戸/備前/清水）の窯元にリサイクル陶土を供給、窯元は商品をエコマーク登録することでエコな商品として販売できる。

エコマーク商品として販売

再生原料

リサイクル陶土